

SHIROTA AWARDS 代田賞

代田賞とは

代田賞は、日本の鍼灸師によって行われた優れた研究に対して授与される賞です。

代田文誌先生は明治33年(1900年)長野県に生まれ、青年期に重症の肺結核となりましたが、養生、精神修養、そして仏道信心によって回復し、それから薬草と灸療によって完全な健康体に戻りました。そののち鍼灸師の資格を取得して澤田健先生に師事し、症例を踏まえた随筆や研究で世に知られるようになり、不朽の名著「鍼灸治療基礎学」「鍼灸真髓」などを執筆するとともに、臨床活動や講演を通して日本鍼灸の発展のために尽力されました。東洋医学と西洋医学の両者を深く理解し止揚することによって新しい医学の在り方を求めた代田文誌先生の治療哲学は、今日に至っても著書を通して多くの鍼灸師に影響を与えています。(多留淳文 1993 および安雲和四郎 2002 の代田文誌紹介文より一部引用)

代田賞は、このように日本鍼灸に多大な貢献をされた代田文誌先生の「遺徳功績を顕彰し、併せて先生畢生の悲願とされた鍼灸の向上発展に資するため」(「代田文誌先生顕彰会設立趣意書」より)に創設された代田文誌先生顕彰会(1975年設立 2006年解散)が、1977年から毎年代田先生の命日の9月25日に授与してきました。顕彰会が解散した2006年以降は、医道の日本社が事務局を担当し顕彰会の役割は代田賞選考委員会に移管されましたが、2021年より森ノ宮医療学園が事務局を担当することになりました。ちなみに森ノ宮医療学園創始者のうち清水千里と米山博久が顕彰会世話人9名に含まれており、代田文誌先生は当学園の初代学鑑に就いておられました。



『医道の日本』昭和50年8月号
医道の日本社、1975.p50-51より転載

その他

■募集要項や応募用紙、選考委員、過去の受賞一覧は公式ウェブサイト
森ノ宮医療学園出版部の代田賞ページに掲載しています。
<https://book.morinomiya.ac.jp/award/>



■鍼灸情報センター
(Morinomiya University of Medical Sciences Acupuncture Information Center, 略称 MUMSAIC)
では森ノ宮医療学園所蔵の代田文誌関連資料を調査・分析・公表を行っております。
<https://mumsaic.jp/shirota/index.php>



■事務局
〒537-0022 大阪府大阪市東成区中本 4-1-8
森ノ宮医療学園出版部内 代田賞運営事務局
TEL : 06-6976-6889 FAX : 06-6973-3133
shirota-award@morinomiya.ac.jp
受付時間 10時～18時(土・日・祝・専門学校休校日を除く)



History 1 長野県に生まれる

1900(明治33)年9月26日、父安吉・母やす系の四男として、長野県下伊那郡豊丘村河野の農家に生まれた。18歳のとき、海軍軍人を志し、東京の学校に編入学するが、翌年肺結核を患い、以降5年間療養生活を送った。一時は大咯血し、生死のさかいをさまよったが、仏教信仰と独自に考えた自然療法とによって克服した。「病者のため一生を捧げようとの私の決心は、この病床において明瞭となった」と後年記している。

History 2 澤田 健に師事

1926(大正15)年(26歳)早稲田大学文学部卒業。同年暮、鍼灸師となった。翌年澤田健に師事し、以後鍼灸の臨床実践に邁進すると共に、西洋医学の研鑽にも努めた(東京帝国大学解剖学教室での鍼灸局所解剖を研究や、日本赤十字社長野支部病院に2年半研究生として入所し、西洋医学の各科につき治療方面を研究)。この頃の成果は、不朽の名著『鍼灸治療基礎学』・『鍼灸真髓』等として公刊され、現在もなお広く読み継がれている。



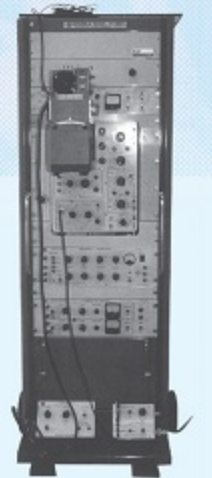
Chronological History 代田 文誌

1900(明治33)年9月26日	父安吉(33歳)母やす系(28歳)の4男として、長野県下伊那郡豊丘村河野2816において出生	1940(昭和15)年4月 ~1945(昭和20)年8月	拓殖大学漢方鍼灸講座講師
1918(大正7)年4月	18歳: 神田区私立錦城中学校第4学年編入学	1941(昭和16)年	41歳: 『鍼灸真髓』刊行
1919(大正8)年1月	19歳: 肺結核を患い、咯血を繰り返す。病床で詩歌や宗教書に親しむ	1941(昭和16)年10月 ~1942(昭和17)年2月	岩手医専解剖学教室で鍼灸経穴局所解剖について研究
1920(大正9)年7月	20歳: 大咯血し、学校を退学。病床にて短歌を作り始める	1942(昭和17)年	42歳: 『灸療雑話』刊行
1920(大正9)年11月	仏道に入る(僧名: 鐘應)	1942(昭和17)年9月 ~1947(昭和22)年	日本鍼灸医学会会長
1921(大正10)年7月	21歳: 生死の大病に際し、医業を廃し、自然療法を始め、翌年復調する	1943(昭和18)年	43歳: 『鍼灸治療臨床学』刊行
1924(大正13)年5月	24歳: 大咯血・元政上人の『草山集』を読み、医に思いを致す	1944(昭和19)年7月	44歳: 長野市県町45に鍼灸研究所を創設、所長を務める。共同設立者倉島宗二、茅野和平
1925(大正14)年	25歳: 父安吉、精神病を発症。あんまを施し続け、奇跡的に治癒する	1947(昭和22)年8月22日	47歳: 石川日出鶴丸博士を三重に訪問
1926(大正15)年3月	26歳: 早稲田大学文学部校外生修了	1947(昭和22)年11月	国立刀根山病院(大阪・渡辺三郎院長)に、刀根山鍼灸医学研究会発足
1926(大正15)年11月	鍼灸あんま術検定試験合格、鍼灸師となる	1948(昭和23)年1月	48歳: 日本鍼灸学会(会長 笹川久吾博士)幹事就任
1927(昭和2)年6月	27歳: 澤田健の門人として入門	1958(昭和33)年6月	58歳: 石川大刀雄博士と皮電計による研究を始める
1927(昭和2)年10月	母やす系、紫斑病にて没。享年56歳	1960(昭和35)年3月	60歳: 日本鍼灸皮電研究会発足。会長就任。この頃から『治療例を主とした針灸治療の実際』執筆にかかる
1928(昭和3)年4月	28歳: 瑞穂精舎(農民道場)講師及び理事	1966(昭和41)年	66歳: 『治療例を主とした針灸治療の実際』刊行
1929(昭和4)年 ~1930(昭和5)年	29歳: 東大解剖学教室で、鍼灸局所解剖について研究	1968(昭和43)年4月	68歳: 長野鍼灸研究所を解散し、東京都三鷹市に移転
1930(昭和5)年3月	30歳: 父安吉、慢性腎炎からくる尿毒症で没。享年64歳	1972(昭和47)年	72歳: 『針灸臨床ノート』・『和合さんの手紙』刊行
1931(昭和6)年4月 ~1933(昭和8)年10月	31歳: 日本赤十字社長野支部病院・研究生	1973(昭和48)年	73歳: 『針灸臨床録』刊行
1933(昭和8)年5月	33歳: 倉島宗二、内弟子として入門(住込み)	1974(昭和49)年	74歳: 『痛みを主とした針灸治療』(共著)刊行
1934(昭和9)年6月	34歳: 『漢方と漢薬』誌に『漢方治療と鍼灸の併用』掲載される	1974(昭和49)年9月	没。享年74歳
1936(昭和11)年6月	36歳: 長野市県町に移転	1975(昭和50)年8月	代田文誌先生顕彰会設立。『歌集 火の山』を刊行
1938(昭和13)年2月	38歳: 望真会を結成、会長となる	1976(昭和51)年	顕彰会、第2の事業として代田賞創設
1938(昭和13)年4月 ~1945(昭和20)年8月	満蒙開拓青少年義勇軍訓練所衛生顧問	1981(昭和56)年	ゆかりの龍門寺に歌碑建立
1939(昭和14)年	39歳: 『閃光記』刊行	2002(平成14)年	代田文誌特別展 開催
1940(昭和15)年	40歳: 『鍼灸治療基礎学』刊行	2008(平成20)年	『代田文誌著作選集』(全8冊)刊行

※年齢はかぞえ年

鍼灸の History 3 科学的追求

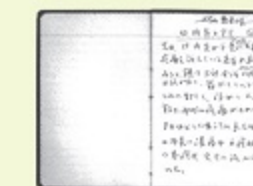
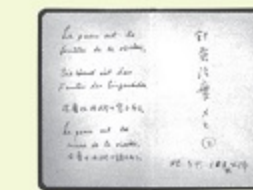
終戦後、「鍼灸が禁止される」かもしれないという社会状況に陥る中で、これからの鍼灸は古典に固執することなく、科学的基礎の上で進むべきであることを強調し、業界に一大旋風を巻き起こすこととなった。元京都大学の教授で、自律神経系の体系的研究という観点から、鍼灸研究にも尽力していた石川日出鶴丸博士と夜を徹して話し、石川学説によって新しい鍼灸医学を構築しようとしたことが、直接のきっかけであった。しかしこの試みは、不幸にも石川の急逝によって頓挫を余儀なくされた。のちに石川(日)の息子で、金沢大学教授の石川大刀雄と協力して、石川(大)の病理学説に基づいて開発された「皮電計」(皮膚の電気抵抗測定器)を用いて、鍼灸の科学的検討に精進し続けた。



皮電計

History 4 健筆をふるう

一連の科学的研究は、終戦後始めて提唱したのではなく、1930年代から代田の一貫した立場であった。60代になっても、健筆は衰えず、1,400頁を超える大著『治療例を主とした鍼灸治療の実際』や『鍼灸臨床ノート』を著している。生涯を通じて、700本以上の論文と50点近い著書が確認されている。1974(昭和49)年9月25日、肺炎により入院先の病院で74歳の生涯を閉じた。



鍼灸臨床ノート